

## スイートコーン（露地）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マルチ	○ ————— ○ - // // // // // // // //											
高冷地	○ — ○ ————— // // // // // // // //											
抑制マルチ	○ - ○ ————— // // // // // // // //											
主な作業	播 種						収 穫					

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

露地栽培は早まきすぎると晩霜害、遅まき過ぎると収穫が梅雨明けとなり、萎ちょう病の発生が見られる。労力分散のため、播種時期を数回に分ける必要がある。近年市場価格が安定せず所得が不安定なことが問題となっているが、ハウス、トンネル等との組み合わせや、他の野菜との輪作体系が成り立つ。

また、スイートコーンはイネ科特有の強い吸肥力を持ち、園芸作物の連作により集積された塩類を除去するクリーニングクロップの役目を果たす。

#### 2 適応地域

全域

#### 3 栽培条件

ハウス栽培参照

#### 4 経営目標

- (1) 収量 1 t/10a
- (2) 投下労働時間 40 時間/10a
- (3) 所得率 55%
- (4) 経営規模 100a  
(家族労働力2人の場合)

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

##### 品種選定

早生性、収量、品質を重視した選定を行う。

バイカラー種 ピーター 610

モノカラー種 味来 390、未来 130、サニーショコラ等

#### 2 本圃準備

##### (1) 播種準備

耕起、畦立て、播種、除草剤散布、マルチの作業を手早く行い土壌の乾燥を防ぐ。土壌が乾燥している場合は、灌水または降雨後にマルチする。

##### (2) 施肥

	施肥量 (kg/10a)		
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
基肥	25	30	25
追肥	15	0	5
全量	40	30	30

##### (3) 畦立て

畦幅 140cm、高さ 10 ~ 15cm の平畦床を作る。排水不良地は 30cm の高畦とする。

95cm 幅、株間 30cm、条間 30cm の 2 条千鳥配列の穴あきマルチを張る。

#### 3 播種

10 a 当たり 3 ㍁ (約 10,000 粒) 準備し、マルチ 1 穴当たり 2 ~ 3 粒播種する。

#### 4 本圃管理

##### (1) 間引き

本葉 3 ~ 4 枚の時、生育の揃った株を 1 本残す。間引く株は根を傷めないよう先の細いハサミ等で株元から切断する。この際残す株の根を傷めるので引き抜くことは避ける。

##### (2) 追肥・土寄せ

3 ~ 4 回追肥する。

1 回目……本葉 5 枚時の花芽分化初期

2 回目……雌穂着生後

3 回目以降は随時行う。

1 回目の追肥時に株元の固定と除草を兼ねて土寄せを行う。

##### (3) 灌水

雌穂出穂期以降、水分を多く必要とする。不足す

ると肥大不良、先端不稔になりやすい。

また、7月中旬以降晴天が続くと萎ちょう病が発生しやすいので灌水に努める。

#### (4) 除けつ

除けつは通常行わない。無除けつ栽培は

- ①雌穂が大きくなって収量が増加する。
- ②先端不稔が少なくなり、品質が向上する。
- ③作業の省力化が出来る。
- ④倒伏に強くなる。

など多くの利点があるので、株元から発生する2～3本の分けつは取らない。

#### (5) 除房

除房は葉銷を傷めることがあるので特に行う必要はない。

#### (6) トッピング

ハウスの項と同じ。

### 5 病虫害防除

アワノメイガ、アブラムシを中心に防除する。防除適期は、圃場全体で雌穂が伸び出した頃である。その後1週間間隔で2回防除する。

### 6 開花と受粉

風媒花で300m程度飛散するため、バイカラー種に隣接して黄粒種を栽培するには圃場を離すか、作型を違わせる必要がある(キセニア現象の防除)。また飼料用トウモロコシの圃場からも離す。

### 7 収穫・出荷

収穫適期は、絹糸が完全に褐変し、子実が黄白色に変色して黄色と白色がはっきりした頃がよい。

収穫は早朝に行い、調整後、箱詰めし予鈴出荷する。